

あいち農産物生産流通レポート

令和3年2月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 無駄や廃棄の少ない調理講習会を開催しました (食育消費流通課)	1
◎ 地域トピックス	
・ 「祖父江ぎんなん街道」が食の街道に認定されました (尾張農林水産事務所)	2
◎ 東日本情報	
・ 変化していく物流 (東京事務所)	3
◎ 西日本情報	
・ 2020年愛知県農業総合試験場の10大成果 (農業総合試験場)	5
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	7
・ 名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し	8
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の2月の見通し(県内市場)	20

※今月、「フラワーページ」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

無駄や廃棄の少ない調理講習会を開催しました

食育消費流通課

愛知県が2016年に作成した、食育推進計画「あいち食育いきいきプラン2020」では、「体」、「心」、「環境」、「支える」の4つの視点から食育を推進しており、「環境」に関しては、「環境に配慮した食生活の実践」や「地産地消」などの取組実施を呼びかけています。

今回、家庭でも実践できる食品ロス軽減の取組に関する調理講習会を、2021年1月25日（月）（聴講コース：名古屋市港区）及び1月28日（木）（実習コース：刈谷市）の2回開催しました。

愛知みずほ短期大学の横山先生を講師としてお招きし、食品ロスの発生が少ないレシピの調理デモンストレーションや調理実習、食品ロス削減に関する講話をいただきました。

2日合わせて、食育推進ボランティアや保育関係者等48名の方に参加いただきました。

1 調理デモンストレーション・調理実習

野菜の皮や芯を有効活用した、レシピを調理しました。

食材として活用することが珍しいバナナの皮の味や食感について、特に反響がありました。

<メニュー>

- さばとトマトの洋風炊き込みご飯
- キャベツの豚ロール
- バナナの皮のきんぴら
- グリーンスープ
- バナナマフィン

（レシピは「食育ネットあいち」で公開しています。
<https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/>）



調理デモンストレーションの様子



できあがった料理

2 講話「食品ロスの削減を考える」

食品ロス削減のために、「食品を買いすぎない」、「適量を調理する」、「できるだけ手前の棚から食品を購入する」などの家庭でも実践できる行動や食品の保存方法に関するコツについて紹介いただきました。

感染症拡大防止に配慮するため、残念ながら会場で試食を行うことはできませんでしたが、終了後のアンケートでは、ほぼ全ての方から「参考になった。」「紹介されたレシピを今後作ってみたい。」と回答がありました。

この他、「これから、食材のロスが防げるような調理ができるように心がけていきたい。」「もっと愛知県産の野菜に関心を持っていきたい。」など、多くの声が寄せられました。

この調理講習会で学んだことを、家庭や職場、地域等において広く受講者に発信いただき、食品ロス削減や地産地消が県民運動として定着することを期待します。

「祖父江ぎんなん街道」が食の街道に認定されました

尾張農林水産事務所

県の「食と花の街道認定事業」で、稲沢市祖父江町の「祖父江ぎんなん街道」が認定されました。尾張農林水産事務所管内では初の街道認定です。認定式では、大村知事から祖父江ぎんなんブランド推進協議会顧問の加藤錠司郎稲沢市長と副会長の光田二郎氏に、県産材で製作された特製認定証が授与されました。式には、稲沢市マスコットキャラクターのいなッピー、銀杏をモチーフにしたぎんこなっちゃんも訪れ、街道の認定を喜びました。

1 祖父江ぎんなん街道特徴

稲沢市祖父江町には、1万本を超えるイチヨウの樹が点在しており、ぎんなんの生産量は全国屈指を誇ります。祖父江ぎんなんは、大粒でもっちりとした食感が特徴であり、市内に祖父江ぎんなんを用いた料理や加工品を提供する店舗が点在しています。それらの店舗を街道としてひとまとまりにしました。

旬のぎんなんを味わうためには、収穫時期にあたる9月から11月半ばがおすすめですが、ぎんなんを使ったお菓子は年中召し上がることができます。

また、市内には多数のイチヨウの樹があるため、ぎんなん料理を食べるだけでなく、黄金色に輝く美しいイチヨウの景観も楽しむことができます。

2 今後について

祖父江ぎんなんのさらなる知名度向上と消費拡大を目指し、地域一体となって祖父江ぎんなんの魅力をPRしていきます。

また、令和3年6月1日に供用開始予定の祖父江ぎんなんパークでは、祖父江ぎんなんの収穫の様子等が学べます。将来的には、祖父江ぎんなんパークと街道との連携が取れることが期待されています。



知事を囲んで記念撮影

(左：ぎんこなっちゃん 右：いなッピー)



祖父江ぎんなん収穫の様子

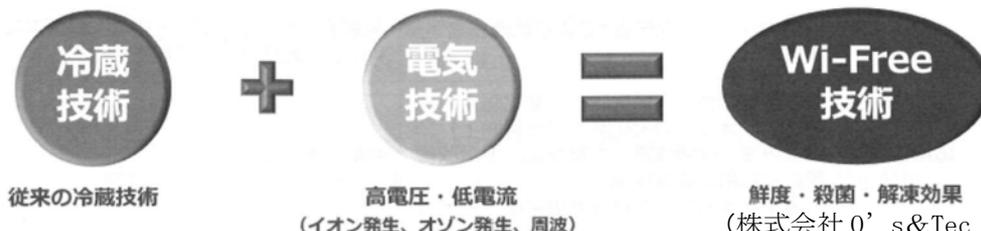
変化していく物流

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

農産物を東京始め他地域へ配送するのに現在はトラック輸送が主流で、本県は立地条件を生かして鮮度の高いものを各地へ送っています。一方、競合産地は距離の遠さによる鮮度の劣化を別の手立てで埋める努力をし、例えば氷を詰めたブロッコリー出荷は定着しています。また、地球温暖化対策としてトラック輸送からの転換が国の目標となっています。今回は物流に関する新しい取組を紹介します。

1 Wi-free システム利用 — 研究段階の鮮度維持技術 —

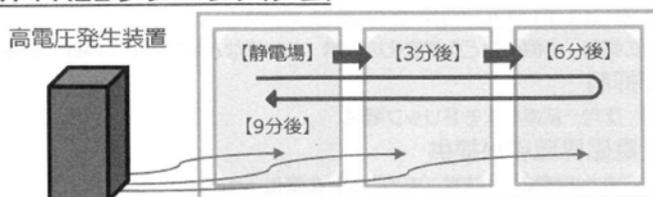
株式会社 0's&Tec (オズアンドテック) の大村代表取締役によると、Wi-free (Without freezing) システムは同社が効率的なコンテナ輸送を目指して開発した技術で、従来の冷蔵技術に加えて、生鮮食品に高電圧・低電流 (約 3500V、6mA) の電気を流してゆらぎ運動させることで凍らせないようにする技術です。開発して 5～6 年が経過し、鮮度維持や殺菌、アミノ酸・糖の分解促進などの効果が想定されており、現在も研究が進められています。花きを含めた農産物等の輸送について、株式会社ジェイアール貨物南関東ロジスティクスや佐川急便株式会社等と協力した実証実験の結果は好評でした。



また、Wi-free の活用モデルとして、完熟トマトを Wi-free 冷凍加工して輸送することで高付加価値な加工食品ができるほか、収穫した米等を Wi-free 保存することで出荷時期が任意になるとともに糖度やうまみ成分が上昇し差別化が図られるとされています。

導入には価格がネックとなっていました。リレーシステムによって利用面積が増大できた結果、Wi-free コンテナのレンタル費は CA コンテナ*等の他の鮮度維持特殊コンテナより安価となっています。また、空輸では運賃が高すぎるものが Wi-free 搭載トラックやコンテナの利用によって空輸と同じ鮮度で運べ、これまで販売が困難だった遠方での販売が可能となることが見込まれます。ただし、品目によっては不適合で、バナナは表面が変色して商品価値がなくなることが分かっており、今後の知見の蓄積が待たれます。

Wi-FREEリレーシステム



1個のWi-FREEで3分間ずつ印加していくことで、最小限の個数で広さをカバーできます。

(株式会社 0's&Tec 配付資料より引用)

なお、保存時間が 5～6 時間のものにはこの装置は不要とされていることから、長期保存の場合に利用が検討されます。

※CA (Controlled Atmosphere) コンテナ：温度に加え、酸度濃度を低くする等、空気中の成分を調整する

2 モーダルシフト ―陸送から海上輸送への転換―

現在主流のトラック輸送において、ドライバー不足や働き方改革によりドライバーの手配が難しくなり、産地から思うように荷を運べない例を耳にすることがあります。また、トラック輸送に伴うCO₂排出量を減らすため、輸送を鉄道や船舶に置き換えるモーダルシフトが国の目標に掲げられています。

商船三井フェリー株式会社は、旅客フェリーのほかRORO船（RORO：ロールオン・ロールオフ。車両甲板を下げてトラックやトレーラーなど自走式車両が乗船・下船する。）を所有しており、東京と九州を結んでいます。九州から東京まで農産物を運ぶ場合、これまでの全経路トラック輸送からRORO船を利用した海上輸送に変えることで、ドライバーの運転時間・CO₂排出量ともに大きく削減されます。

一般的な商品を例にとれば、東京から苅田（福岡県）までの航路の最速航路は25.5時間で、陸送と同じ3日目の朝に九州一円に配送可能となっています。

事例は少ないものの、九州航路が農産物輸送に利用された例として、佐賀県の春タマネギやバレイショが挙げられます。現状では船の出航時間と農産物の出荷時間がマッチしないため実績が伸びないとのことですが、JA大分は大分港に倉庫を作り一時保管できるようにしており、一部では対応が見られます。施設は誰が作るべきか、実需に合わせた出航時間にしたらどうかなど課題は山積ですが、ドライバー不足の時代に対応した新しい輸送方法のひとつと思われまます。

3 市場機能と物流機能の統合 ―横浜フレッシュセンターの流通方式―

横浜フレッシュセンターは、カット野菜・冷凍野菜等の加工原料や、外食及び中食での業務用食材として利用される野菜の割合が増加する中で、物流の効率化等を目的として平成18年にしゅん工しました。このセンターは生鮮流通の要と言える卸売市場である横浜南部市場内に立地しながら、量販店・外食・中食等の物流拠点、サプライセンターとして利用されており、市場機能と物流機能を統合した全国初のビジネスモデルです。

通常は農産物が市場に入荷後、再び加工業者の元へ輸送されますが、同センターでは市場に入荷するとそのままセンター内にある加工業者の元に届き、加工作業・出荷作業が行われるため、輸送回数が減ることで時間とコストが減り、鮮度維持にもつながります。

同センターは自動倉庫（冷蔵0℃～冷凍-25℃）を核とした多温度帯ロジスティクスセンターで、フロアは-20℃・0℃・常温（15～20℃）の3温度帯で管理されることで産地から消費者までのコールドチェーン化によるサプライチェーンマネジメントが行われ、多品種集約型作業の効率化サービスが提供されています。また、台車（ハンディキャリー）にバーコードを付け、センサーを利用して管理・仕分されており、商品管理と配送業務の一元化によるリアルタイム情報提供が行われています。

当初は4000坪の第1フレッシュセンターのみでしたが、その後第2、第3フレッシュセンターが増設され、タイムリーでシームレスな物流サービスが提供されています。

こうした市場内や隣接地への物流センター開設の動きは、福岡市でも見られています。

保存技術を含めた物流の進展は、農産物の重要な要素のひとつである鮮度に影響します。新しい技術は、立地条件を生かした鮮度の高さのような本県産の持つ強みに影響を及ぼす可能性もあり、今後も競合産地の動向を注視しながら新しい動きに対応していくことが求められます。

2020年愛知県農業総合試験場の10大成果

農業総合試験場

愛知県農業総合試験場では、農業の発展や農家経営の改善のため、新しい品種や高度な栽培技術・飼養技術などの開発を行っています。こうした試験研究について、広く県民の皆様にご理解を深めていただくため、農業総合試験場の研究成果の中から、特に優れたものや社会的関心の高いものを各界の選定委員に選んでいただき、2020年の10大成果として公表しましたので紹介します。

1 2020年の10大成果

第1位	スプレーギクの新品種「スプレー愛知夏2号」と「アイセイカーラ」を開発
第2位	夏の暑さに強い水稻早生品種「愛知135号」を開発
第3位	ナシモザイク症の病原ウイルス検出法を開発
第4位	ジネンジョの湿害軽減対策技術及び養分吸収に基づく施肥技術を開発
第5位	肉豚における食品製造副産物の給与技術を確立
第6位	光学センサーを用いた小麦品種「きぬあかり」の生育調査法を開発
第7位	ソルガムを利用した露地野菜のカリ減肥技術を開発
第8位	代かき時の濁水流出を軽減する止水高を検証
第9位	鉢物コショウランでエチレン阻害剤の効果を実証
第10位	「かがり弁ギク」のブランド戦略の方針を策定

2 選定委員

あさかわ 浅川	すすむ 晋	名古屋大学大学院生命農学研究科	教授
いとう 伊藤	ひろやす 博康	株式会社CBCテレビ報道局報道部	参事
ひらみつ 平光	さちこ 佐知子	生活協同組合コープあいち	副理事長
すだ 須田	あきら 晃	愛知県農業総合試験場	場長

(敬称略・五十音順)

3 特徴・傾向

研究成果の中から選定委員が、「実用性」、「新規性」、「社会性」、「普及性」の項目について5段階で評価しました。2020年の10大成果では、生産者の収益向上や生産物の品質向上につながる新品种や新技術の開発に加え、ブランド戦略方針の策定など、多岐にわたる研究成果10課題を選定しました。これらのうち、上位3課題を紹介します。

- 第1位：高温に強いピンク色夏秋系のスプレーギク品種「スプレー愛知夏2号」と、イノチオ精興園（株）との共同研究によって矮化病に強いピンク色秋系のスプレーギク品種「アイセイカーラ」を開発しました。2品種を組み合わせることで安定した周年出荷が可能となり、産地のブランド力向上に寄与します。
- 第2位：愛知県経済農業協同組合連合会と共同で、耐暑性を有する水稻早生品種「愛知135号」を開発しました。本種は高温下でも品質が低下しにくく、玄米の外観が優れます。また、極早生品種と中生品種への作付集中による作業競合の緩和が期待されます。
- 第3位：ナシの病害「モザイク症」の病原と考えられる新種のウイルス「ナシ葉退緑斑点随伴ウイルス（仮称）」を検出するための遺伝子診断法を開発しました。これにより早期に発生を確認できるようになり、防除対策に有用であるとともに、苗木生産や穂木の健全性を担保する検査法として活用が期待されます。

4 公表

農業総合試験場の Web ページ (<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>) で、10 大成果の詳細がご覧いただけます。

第1位

スプレーギクの新品種「スプレー愛知夏2号」と「アイセイカーラ」を開発



第2位

夏の暑さに強い水稻早生品種「愛知135号」を開発



第3位

ナシモザイク症の病原ウイルス検出法を開発



愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1%台以下
 わずか : ± 2%台以内
 や や : ± 3～5%台
 かなり : ± 6～15%台
 大 幅 : ± 16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2年実績	7, 515	1, 621 (22%)	375	249	北海道 (17%) 鳥取 (16%) 長野 (14%)
3年見通し	7, 520	—	375	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>12月上旬までは暖冬による前進出荷、中旬からは冷え込みにより入荷が減少した。1月は降雪による収穫遅れと冷え込みによる生育遅れで、平年より出方が鈍かった。2月は適度な雨もあり、温度も上がり、生育順調で入荷が増える見込み。全体的に作付面積は微増傾向か。新型コロナウイルス感染症の影響で飲食店需要が減り、単価が伸び悩んでいる。 入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>			<p>全国的には、1箱20玉入り、氷詰出荷が主流となっている。愛知は1箱12玉入りであるが、量販店においては1箱あたりの玉数が多い商品に需要がある。また、鮮度保持を目的に、市場を経由せず、産地から量販店に商品を直送する動きもある。愛知においても、これらに対応できる販売体制の検討をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2年実績	34, 052	3, 525 (10%)	383	230	香川 (20%) 北海道 (18%) 埼玉 (10%)
3年見通し	35, 000	—	380	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>香川、北海道に本県が続く。主力の香川のほか、熊本や長崎の九州産地が年々入荷量を増やしている。 本年は、台風等の大きな気象災害なく、いずれの産地も生育は順調で作柄良好であるが、この冬は冷え込みが厳しく、干ばつ傾向でもあるため量が少なくなっている。今後は降雨に加え、温暖になると生育は進むため、冷え込みが長引けばその後一気に入荷が増える可能性もある。 販売面は良好とは言えない中、量が少なかったために1月の単価は上昇してピークとなり、その後は下落となるか。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。</p>			<p>全国的に氷詰出荷へ転換しており、商系産地中心ではあるが、埼玉県産など氷詰レスの産地が氷詰出荷を検討している。 その中で本県産には秋冬産地のトップブランドとして多くのファンがいて、品質への信頼が高いため、そうした各顧客への販売量の確保がしっかりできれば、優先的に販売していただけると考えている。 今後も量販店を中心とした需要は増えるの見込まれ、契約販売、事前提案販売を積極的に行い、品質、販売数量ともに事前情報では高い精度での対応をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し

名古屋中央卸売市場

1月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	28年	32,001	237	235	239	233	愛知 26%
	29年	30,542	237	237	241	224	北海道 24%
	30年	27,777	287	284	285	294	鹿児島 6%
	元年	30,958	212	220	207	207	静岡 6%
	2年	33,713	194	196	194	190	茨城 6%
	5ヵ年平均	30,998	232	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	30,900	219	—	—	—	
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知と北海道を中心に入荷する。葉菜類と根菜類は低温と干ばつにより小玉傾向で入荷は少ない。果菜類では低温と成り疲れにより入荷の少ない品目も見られる。価格は全体的に平年を下回る動きとなるか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>						
だいこん	28年	1,771	79	83	72	88	静岡 35%
	29年	1,709	90	90	90	95	千葉 20%
	30年	1,374	180	179	185	183	徳島 15%
	元年	1,765	69	84	67	61	鹿児島 11%
	2年	1,703	67	64	68	77	愛知 9%
	5ヵ年平均	1,664	93	97	92	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,700	80	80	80	80	
こ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>静岡を中心に千葉、徳島などから入荷する。低温と干ばつの影響でやや小玉傾向にあり、2L～L中心に入荷する。今後の天候次第だが、概ね順調な入荷を見込む。昨年の安値の影響か作付面積は微減。入荷量は前年並で、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						
にんじん	28年	1,961	97	107	94	92	愛知 94%
	29年	1,994	138	135	138	141	鹿児島 3%
	30年	1,611	202	186	210	218	長崎 1%
	元年	1,888	85	84	83	89	
	2年	2,130	79	74	75	89	
	5ヵ年平均	1,917	117	114	116	122	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,100	100	100	100	100	
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知主体の入荷となる。愛知は低温と干ばつの影響から全体的に小玉傾向でL～M中心に入荷する。前年よりも2L比率が低く、入荷も少ない見込み。下旬は主力愛知が減少に転ずるか。入荷量は前年並で、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	28年	120,492	260	263	260	256	千葉 16%
	29年	117,268	256	254	259	256	茨城 14%
	30年	107,526	314	312	317	312	北海道 12%
	元年	114,138	232	242	230	225	愛知 11%
	2年	122,037	216	213	220	215	神奈川 6%
	5ヵ年平均	116,292	254	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	117,000	230	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地、北海道、愛知からの入荷が中心となる。豊作傾向も1月は低温と干ばつに加え雪の影響で入荷量が減少する時期があった。今後は降雨や気温上昇により順調な入荷が見込まれ、相場は厳しいか。入荷量は多かった前年をやや下回り、価格は安値の前年をかなり上回る見込み。</p>					
だいこん	28年	12,215	80	86	69	83	神奈川 54%
	29年	11,607	90	87	92	93	千葉 37%
	30年	8,925	173	168	178	176	徳島 3%
	元年	9,831	81	93	81	67	鹿児島 1%
	2年	11,082	69	63	71	73	青森 1%
	5ヵ年平均	10,732	96	96	95	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	11,000	85	80	85	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>神奈川、千葉からの入荷が中心となる。干ばつによる生育遅延や肥大不足のほか、千葉では冷え込みによる葉傷みもみられる。全体的に小ぶりとなるも、安定した入荷が続くと見込まれる。入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
にんじん	28年	7,166	92	96	90	91	千葉 75%
	29年	6,243	161	152	162	172	埼玉 9%
	30年	6,287	178	179	178	176	茨城 7%
	元年	5,935	101	94	107	104	鹿児島 5%
	2年	6,009	118	115	113	126	中国 1%
	5ヵ年平均	6,328	129	127	129	133	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	5,900	135	130	135	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉を主力に関東産地からの入荷が中心となる。千葉は冷え込みによる地上部の枯れあがりでは肥後が遅くなる懸念がある。前進傾向のため切り上がりが早まって下旬に不足し、価格は上がるか。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	28年	2,296	85	79	78	108	兵庫 40%
	29年	2,318	112	99	125	112	茨城 25%
	30年	2,527	179	174	182	191	愛知 22%
	元年	2,712	48	50	49	45	三重 6%
	2年	2,608	60	58	54	70	長崎 4%
	5ヵ年平均	2,492	96	91	96	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,500	60	60	60		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫、茨城、愛知などから入荷する。各産地ともに生育順調で、上旬までの入荷は多い見込み。茨城は終了が見えており、愛知はやや前進傾向で早めに切り上がるか。業務需要が見込めず、厳しい販売となる。入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年並となる見込み。</p>				
	キヤベツ	28年	3,864	62	62	67	63
29年		3,259	122	131	127	114	富山 3%
30年		2,376	239	236	258	226	滋賀 2%
元年		3,250	76	94	71	67	兵庫 2%
2年		3,674	57	52	64	57	三重 1%
5ヵ年平均		3,285	101	105	107	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し		3,300	75	75	75		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知主体の入荷となる。愛知は低温と干ばつの影響で小玉傾向にあり、入荷量は前年をかなり下回る見込み。今後の天候次第で増量するか。冬系の入荷が減少し、春系が主流になってくる。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ほうれんそう		28年	294	581	616	583	577
	29年	399	479	524	501	417	茨城 14%
	30年	290	677	862	701	530	岐阜 7%
	元年	344	455	541	428	403	静岡 5%
	2年	364	424	421	449	414	徳島 4%
	5ヵ年平均	338	514	579	523	461	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	380	450	500	450	400	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に茨城などからも入荷する。上旬は低温の影響による生育遅れで入荷が少なく、高値の推移が予想される。気温が緩む中旬から下旬にかけて増量する見込み。愛知は前年並の入荷を見込む。入荷量は前年をやや上回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>				

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	28年	11,091	61	57	50	83	茨城 71%	
	29年	11,287	99	87	111	103	群馬 13%	
	30年	12,466	164	161	156	184	兵庫 11%	
	元年	12,476	38	42	41	29	埼玉 3%	
	2年	12,222	51	46	48	60	愛知 1%	
	5ヵ年平均	11,908	83	79	81	92	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	12,000	45	40	50	45		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、群馬、兵庫からの入荷が中心となる。台風等気象災害なく、天候に恵まれ各産地とも生育順調。年末年始の寒波以降の低温で外葉に傷みがみられるも結球には影響せず。順調な出回りを見込む。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
	キャベツ	28年	15,890	67	67	68	66	愛知 66%
29年		13,889	129	128	129	130	千葉 22%	
30年		11,828	252	224	266	280	神奈川 9%	
元年		15,497	80	100	74	68	鹿児島 1%	
2年		16,495	59	53	64	60	茨城 1%	
5ヵ年平均		14,720	109	108	112	112	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
3年見通し		15,000	85	90	85	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を主力に、千葉、神奈川からの入荷が中心となる。各産地とも作柄良好も低温と干ばつで小玉傾向。今後は降雨で肥大回復を見込む。前進化で入荷の多かった前年より減らすも潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は安値の前年を大幅に上回る見込み。</p>						
ほうれんそう		28年	1,380	534	634	479	481	群馬 34%
	29年	1,718	408	424	419	373	茨城 31%	
	30年	1,353	625	755	596	505	埼玉 12%	
	元年	1,520	422	505	410	355	千葉 10%	
	2年	1,703	403	393	460	362	福岡 4%	
	5ヵ年平均	1,535	471	529	468	410	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	1,600	420	500	400	360		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。各産地とも乾燥傾向と低温により生育は遅れ気味。品質に問題はなく、降雨と気温上昇で生育は回復し、安定した入荷となると見込まれる。 入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は安値の前年をやや上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	903	392	405	374	420	大分 30%
	29年	755	442	407	476	460	静岡 19%
	30年	709	528	516	550	531	鳥取 9%
	元年	846	334	338	342	323	群馬 9%
	2年	972	303	296	303	310	愛知 9%
	5ヵ年平均	837	392	385	399	401	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	900	330	340	330	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>大分、静岡、愛知、鳥取などの各産地から入荷する。白ねぎは、大分が順調に入荷し、静岡と鳥取は天候の影響で入荷減となる見込み。愛知の越津ねぎは平年並の安定した入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
しそ	28年	1,274	326	318	347	312	兵庫 31%
	29年	1,445	241	263	241	222	茨城 17%
	30年	1,210	376	413	373	333	静岡 17%
	元年	1,437	217	246	217	190	愛知 13%
	2年	1,791	178	187	188	165	熊本 11%
	5ヵ年平均	1,431	258	276	264	236	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,500	240	260	240	220	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫を中心に静岡、愛知などから入荷する。今後も冷え込みが続けば玉が伸びず、L～M中心の入荷となる見込み。愛知の入荷は多かった前年をかなり下回るも平年より多いか。中旬から茨城が入荷する。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
きゅうり	28年	1,158	412	491	387	366	愛知 63%
	29年	1,180	304	328	302	278	高知 14%
	30年	1,313	340	407	309	296	宮崎 12%
	元年	1,230	350	372	337	340	鹿児島 9%
	2年	1,234	417	551	362	350	群馬 1%
	5ヵ年平均	1,223	364	430	339	326	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,220	400	500	350	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に宮崎、高知、鹿児島 of 西南暖地から入荷する。厳寒期のため、各産地ともに大きな入荷ピークはないが、少ないながらも安定した入荷を見込む。引き続き太物クラスの比率は低いと予想される。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	5,136	331	336	321	336	千葉 37%
	29年	4,456	371	339	398	384	埼玉 19%
	30年	4,248	479	467	464	523	茨城 17%
	元年	4,544	330	331	349	308	群馬 7%
	2年	4,999	249	242	248	259	栃木 7%
	5ヵ年平均	4,677	348	339	351	357	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,700	340	360	360	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉県、埼玉県など関東産地からの入荷が中心となる。低温と干ばつの影響で生育が遅れがみられるほか細物多く葉傷みも多いが今後は回復。茨城は栽培面積の増加に伴い増量するも、全体としては平年並みか。入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
し	28年	6,289	310	306	329	294	静岡 32%
	29年	6,870	231	248	231	212	茨城 18%
	30年	5,475	362	393	368	314	香川 12%
	元年	6,854	200	228	198	173	長崎 9%
	2年	7,736	168	172	177	155	兵庫 8%
	5ヵ年平均	6,645	246	261	253	271	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	6,900	220	250	220	190	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、茨城、香川などからの入荷となる。各産地とも冷え込みに加え干ばつのため生育は停滞気味。降雨により干ばつ解消も気温が低いため急増はないが、下旬に茨城からの入荷が始まると相場軟化か。入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は安値の前年を大幅に上回る見込み。</p>					
きゅうり	28年	4,986	446	526	409	404	宮崎 29%
	29年	5,040	316	341	315	286	千葉 20%
	30年	5,004	366	425	346	312	群馬 19%
	元年	4,451	367	379	367	355	高知 12%
	2年	4,663	450	601	381	387	茨城 11%
	5ヵ年平均	4,829	388	454	363	348	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,700	370	380	370	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎等の西南暖地や千葉、群馬等の関東産地からの入荷が中心となる。宮崎は十分な日照で生育順調も成り疲れの懸念がある。関東各産地も好天で生育は前進傾向。全体として安定した入荷となるか。入荷量は前年並となり、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	28年	424	485	575	464	441	熊本 55%
	29年	392	419	424	421	410	愛知 41%
	30年	412	437	439	435	439	高知 4%
	元年	390	439	445	448	430	
	2年	448	444	455	442	439	
	5ヵ年平均	413	445	469	442	432	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	430	430	430	430	430	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知、熊本を中心に入荷する。各産地ともに平年並の入荷を見込むが、気温低下と日照不足により、L～M中心の入荷となる見込み。量販店需要は平年並を見込むも、業務需要は少なく前年より安値となるか。入荷量と価格はともに前年をやや下回る見込み。							
ト マ ト	28年	978	437	519	395	403	熊本 55%
	29年	950	372	391	374	350	愛知 24%
	30年	972	336	311	352	355	三重 11%
	元年	1,066	320	298	319	349	岐阜 8%
	2年	1,075	361	386	357	346	高知 1%
	5ヵ年平均	1,008	364	380	359	360	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,050	330	330	330	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知、三重、岐阜を中心に入荷する。各産地ともに作柄良好で、平年並の入荷を見込む。春商材の需要もあり、順調な販売が予想される。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
ミ ニ ト マ ト	28年	332	932	945	913	937	熊本 64%
	29年	335	793	814	798	780	愛知 27%
	30年	374	745	759	738	736	和歌山 5%
	元年	405	711	684	708	749	宮崎 4%
	2年	427	741	789	713	733	
	5ヵ年平均	375	778	792	768	782	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	370	750	750	750	750	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知を中心に入荷する。12月は入荷量が多く、1月は成り疲れで下旬から入荷減となった。2月は成り疲れと冷え込みの影響で、増量していた過去3年に比べると少ない入荷が予想される。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。							

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	28年	2,250	488	554	456	463	高知 62%
	29年	2,114	466	459	465	475	福岡 16%
	30年	1,904	513	503	506	540	熊本 12%
	元年	1,918	492	520	493	469	佐賀 3%
	2年	2,126	491	509	480	486	栃木 2%
	5ヵ年平均	2,062	489	509	479	486	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,100	500	510	500	490	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知を主力に福岡や熊本など九州からの入荷が中心となる。1月は曇雨天や寒気の影響で各産地とも肥大が鈍り数量は低迷。花数は増加していることから2月は増量し、潤沢な入荷となると見込まれる。入荷量と価格はともに前年並となる見込み。</p>					
<p>高知を主力に福岡や熊本など九州からの入荷が中心となる。1月は曇雨天や寒気の影響で各産地とも肥大が鈍り数量は低迷。花数は増加していることから2月は増量し、潤沢な入荷となると見込まれる。入荷量と価格はともに前年並となる見込み。</p>							
ト マ ト	28年	5,387	474	553	438	433	熊本 38%
	29年	5,447	404	433	406	370	栃木 21%
	30年	4,972	378	359	392	387	愛知 14%
	元年	4,989	377	360	376	394	静岡 4%
	2年	4,796	428	442	425	416	千葉 4%
	5ヵ年平均	5,118	413	431	408	400	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,700	360	330	340	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、栃木、愛知からの入荷が中心となる。各産地とも生育はおおむね順調で着果良好も、低温により着色ペースが遅い。小玉化する産地があるほか、下旬に主力熊本が減らし相場上昇となるか。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
<p>熊本、栃木、愛知からの入荷が中心となる。各産地とも生育はおおむね順調で着果良好も、低温により着色ペースが遅い。小玉化する産地があるほか、下旬に主力熊本が減らし相場上昇となるか。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
ミ ニ ト マ ト	28年	1,339	951	1,007	911	932	熊本 43%
	29年	1,433	715	742	702	695	愛知 21%
	30年	1,486	701	716	696	683	宮崎 9%
	元年	1,507	689	661	675	736	千葉 9%
	2年	1,507	742	793	709	717	静岡 6%
	5ヵ年平均	1,454	756	779	735	749	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,450	630	600	630	660	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知などからの入荷となる。厳寒期で入荷の少ない時期にあたる。各産地とも生育はおおむね良好。産地によっては冷え込みの影響で着果の悪い時期があるも、総じて不足感のない出回りが見込まれる。入荷量は多かった前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
<p>熊本、愛知などからの入荷となる。厳寒期で入荷の少ない時期にあたる。各産地とも生育はおおむね良好。産地によっては冷え込みの影響で着果の悪い時期があるも、総じて不足感のない出回りが見込まれる。入荷量は多かった前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

1月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	28年	380	768	825	787	703	鹿児島 52%
	29年	442	575	604	602	528	宮崎 32%
	30年	382	737	757	742	677	高知 13%
	元年	367	669	689	671	637	茨城 1%
	2年	323	824	810	812	790	沖縄 1%
	5ヵ年平均	379	707	731	717	659	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	330	715	750	700	700	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>鹿児島、宮崎、高知からほぼ全量を入荷する。各産地ともに12～1月は前倒しで入荷しており、2月上旬までは成り疲れと冷え込みの影響で入荷量は少ない見込み。天候次第では中旬から数量が回復するか。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					
白菜	28年	3,040	189	177	206	181	北海道 55%
	29年	2,676	238	225	250	243	鹿児島 42%
	30年	2,547	144	136	151	148	長崎 3%
	元年	2,501	118	117	115	119	
	2年	3,150	99	87	106	104	
	5ヵ年平均	2,783	157	148	165	158	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,400	180	160	180	200	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、鹿児島を中心に長崎からも入荷する。北海道の残量は少なく、2月末までの入荷を見込む。鹿児島は離島産中心となるが、作付面積の減少により、入荷量は前年を下回る見込み。長崎はほぼ終了か。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
タマネギ	28年	6,413	85	82	91	89	北海道 87%
	29年	6,218	87	86	93	84	静岡 11%
	30年	5,519	104	102	102	115	愛知 1%
	元年	6,239	129	126	136	124	
	2年	6,922	78	83	75	78	
	5ヵ年平均	6,262	96	95	99	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	6,400	85	85	85	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に静岡、愛知などから入荷する。北海道はL大中心に安定した入荷を見込む。静岡は大玉傾向、生育良好で入荷ピークが早まるか。愛知の新玉も生育順調で、前年を上回る入荷を見込む。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	28年	1,324	799	881	812	703	宮崎 44%
	29年	1,516	595	626	616	542	高知 22%
	30年	1,358	757	802	768	672	茨城 20%
	元年	1,442	696	727	709	651	鹿児島 12%
	2年	1,277	838	823	827	651	沖縄 1%
	5ヵ年平均	1,383	732	767	742	641	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,300	720	680	750	730	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎など西南暖地と茨城からの入荷が中心となる。西南暖地は低温の影響で1月は量を減らすも2月には回復を見込む一方、茨城は低温で肥大遅れがみられる。入荷量は総じて平年より少ないと見込まれる。 入荷量は少なかった前年並となり、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					
白菜	28年	6,945	182	178	181	188	北海道 67%
	29年	6,604	227	224	231	226	鹿児島 30%
	30年	7,410	129	128	134	122	長崎 2%
	元年	7,422	106	110	104	104	
	2年	8,286	90	87	90	94	
	5ヵ年平均	7,333	143	142	144	143	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	6,900	210	200	220	210	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に、鹿児島、長崎からの入荷がほとんどを占める。貯蔵から入荷の北海道は大玉傾向も玉数少なく、前年・平年より少なめ。長崎に代わり入荷が本格化する鹿児島も肥大遅延により少ない見込み。 入荷量は豊作の前年を大幅に下回り、価格は安値の前年を大幅に上回る見込み。</p>					
たまねぎ	28年	11,034	98	93	101	99	北海道 75%
	29年	11,722	104	100	103	110	静岡 20%
	30年	10,294	121	118	124	122	中国 2%
	元年	9,062	154	154	163	145	
	2年	11,194	82	87	82	78	
	5ヵ年平均	10,661	110	108	112	109	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	11,000	105	100	110	105	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に静岡から入荷する。北海道は貯蔵からの計画出荷でL大中心に前年並を見込む。静岡は作柄良好で、生育の前進傾向のため多めの入荷が見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月18日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	7,698	422	409	424	440	青森 20%
	29年	7,821	400	379	396	435	フィリピン 15%
	30年	7,115	431	422	432	419	愛媛 14%
	元年	7,715	423	401	411	443	愛知 12%
	2年	7,083	427	406	421	421	静岡 8%
	5ヵ年平均	7,486	420	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	7,600	390	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	いちご、りんご、みかんなどが主な品目となる。りんごとみかんは前年より入荷が多く、いちごはやや少ない。みかんは表年で量が多いため、後ろ倒しにした分、2～3月はやや多めの入荷となる見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
りんご	28年	1,876	322	326	321	326	青森 96%
	29年	1,522	308	321	297	299	秋田 2%
	30年	1,476	325	319	329	331	長野 1%
	元年	1,843	285	286	292	279	
	2年	1,494	329	327	328	336	
	5ヵ年平均	1,642	313	315	313	313	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	1,800	270	275	275	275		
りんご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森が主産地となる。青森は輸出も一段落し、今後は国内向けが本格的に開始する予定。果実は小玉傾向で、下級品の増加が懸念される。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。						
いちご	28年	683	1,465	1,522	1,416	1,448	愛知 59%
	29年	825	1,234	1,360	1,225	1,125	熊本 25%
	30年	785	1,292	1,437	1,278	1,138	鹿児島 6%
	元年	720	1,533	1,507	1,539	1,567	佐賀 3%
	2年	774	1,360	1,538	1,348	1,218	宮崎 2%
	5ヵ年平均	757	1,370	1,470	1,355	1,289	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	750	1,350	1,350	1,333	1,300		
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、熊本を中心に鹿児島などからも入荷する。各産地の2番果が上旬にピークを迎える。3番果は下旬以降の入荷となるが、やや減少する見込み。愛知は前年並の入荷を見込む。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。						

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	33,594	461	452	470	465	青森 18%
	29年	36,884	438	425	448	446	愛媛 17%
	30年	32,174	489	475	503	494	静岡 12%
	元年	33,065	483	464	486	506	和歌山 7%
	2年	32,198	494	484	500	498	栃木 7%
	5ヵ年平均	33,583	472	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	33,500	470	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	りんご、みかん、いちごを中心に入荷。前年産のみかんは静岡のひょう害により入荷量が少なかったが、今年は問題ない。不知火などの中晩柑類も前年並の入荷を見込む。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						
りんご	28年	7,365	304	295	306	311	青森 96%
	29年	6,713	284	292	283	273	山形 1%
	30年	6,403	305	300	308	310	長野 1%
	元年	6,610	277	280	280	272	
	2年	5,828	344	346	343	344	
	5ヵ年平均	6,584	302	301	303	301	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	6,500	300	300	300	300	
ご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森の貯蔵品を中心に入荷する。主力となる「ふじ」は、今年は前年のような高温・干ばつの影響もなく、平年並の生育で肥大もよい。「王林」は少ないものの、りんご全体では潤沢となる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
いちご	28年	3,813	1,445	1,568	1,414	1,347	栃木 46%
	29年	4,850	1,260	1,319	1,259	1,193	福岡 17%
	30年	4,624	1,337	1,388	1,336	1,270	茨城 12%
	元年	4,112	1,513	1,489	1,521	1,530	静岡 8%
	2年	4,648	1,431	1,627	1,401	1,288	佐賀 6%
	5ヵ年平均	4,409	1,391	1,473	1,381	1,319	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,700	1,350	1,400	1,350	1,300	
ご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	栃木を中心に福岡、茨城などから入荷する。各産地いずれの品種も、2月上旬に2番果のピークを迎え潤沢な入荷が続く。その後、3番果に切り替わる下旬でやや減少するか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。						

切花・鉢花の2月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 1月29日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	28年	1,709	54	
		29年	1,324	49	
		30年	1,676	45	
		元年	1,494	54	
		2年	1,264	43	
5カ年平均		1,493	49		
3年見通し		1,300	45		
概要	愛知を中心に入荷する。入荷量は多くないだろうが、葬儀の動きが鈍く、このままだと相場展開も厳しそう。下旬からは入荷も落ち着く見込み。				
小 ぎ	実績	28年	1,134	39	
		29年	868	30	
		30年	912	37	
		元年	955	31	
		2年	870	31	
5カ年平均		948	34		
3年見通し		900	32		
概要	沖縄を中心に入荷する。入荷量は昨年並の見込み。一般消費の動きで単価が動きそうである。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	28年	914	48	
		29年	843	34	
		30年	929	43	
		元年	1,053	36	
		2年	850	42	
5カ年平均		918	40		
3年見通し		840	40		
概要	愛知を中心に和歌山、長野からも入荷する。輸入の関係はコロナ禍ということもあり、計画で例年の7～8割の入荷模様。全体量としては微減の予想。需要としては引き続き、業務関係は厳しく、色合によっては引き合いがわかれてしまうことも予想される。				
か す み	実績	28年	197	71	
		29年	180	59	
		30年	167	86	
		元年	166	66	
		2年	145	76	
5カ年平均		171	71		
3年見通し		140	80		
概要	高知、和歌山、熊本から入荷する。作付けから見ると大きな山なく、安定した入荷となる予想。緊急事態宣言が2月上旬に解除されれば、ブライダル、葬儀需要も戻り、販売も安定してくると思われる。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	28年	281	175	
		29年	230	164	
		30年	224	199	
		元年	235	162	
		2年	235	163	
	5カ年平均		241	172	
	3年見通し		230	170	
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、埼玉、愛知から入荷する。作付けから見て、入荷量は多くなく、安定した入荷となりそう。LA、鉄砲はやや少ない入荷となりそう。</p>				
洋らん	実績	28年	453	82	
		29年	350	80	
		30年	364	96	
		元年	390	77	
		2年	362	87	
	5カ年平均		384	84	
	3年見通し		350	90	
概要	<p>高知、徳島、愛知、鹿児島や輸入が入荷する。胡蝶蘭は、国産が少なめで、輸入が中心となる。カトレアは平年並み。デンファレは旧正月の影響でソニアが品薄傾向。オンシジウムも旧正月の影響から1月の半分ぐらいの数量になると思われる。</p>				
ばら	実績	28年	657	83	
		29年	558	75	
		30年	654	83	
		元年	422	102	
		2年	508	87	
	5カ年平均		560	85	
	3年見通し		480	90	
概要	<p>愛知、三重を中心に入荷する。輸入の関係は引き続き、エリアによって勝手は違うのだが、ケニア、エチオピア、コロンビアは例年の7～8割の入荷見込み。2月はフラワーバレンタインといったイベントもあり、徐々ではあるが引き合いを感じている。コロナ禍で販売は厳しいが、ギフト需要に期待。</p>				
枝もの	実績	28年	1,656	44	
		29年	1,437	43	
		30年	1,519	49	
		元年	1,543	47	
		2年	1,363	51	
	5カ年平均		1,504	47	
	3年見通し		1,350	50	
概要	<p>コロナの影響から、桃のお稽古の需要が減少する見通しで、量販中心の販売が見込まれる。昨年の台風の影響はないがミモザアカシアの入荷は遅れ気味で、ミモザの日に向け、引き合いは強まる。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
エ リ カ	実 績	28年	10,881	209	
		29年	7,391	184	
		30年	5,581	194	
		元年	7,271	190	
		2年	6,470	245	
	5ヶ年平均		7,519	204	
	3年見通し		6,400	234	
概要	<p>入荷量は昨年並の見込みではあるが、北陸地方を中心とした豪雪被害の状況にもよる。前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位新潟（58.7%）、2位静岡（30.5%）、3位山梨（5.6%）となっている。</p>				
プ リ ム ラ	実 績	28年	208,852	102	
		29年	251,311	85	
		30年	223,289	84	
		元年	194,405	91	
		2年	210,600	85	
	5ヶ年平均		217,691	89	
	3年見通し		210,000	81	
概要	<p>入荷量は昨年並か、やや少なめの見込み。夏の暑さにより苗のロスが多い。長期予想で、気温は例年並の予想のため、販売も昨年並だと予想される。巣ごもり需要でガーデニングをする人達が増えると期待したい。前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（41.8%）、2位埼玉（13.4%）、3位奈良（8.2%）となっている。</p>				
チ ュー リ ッ プ	実 績	28年	37,189	200	
		29年	28,077	180	
		30年	29,409	146	
		元年	21,481	169	
		2年	30,814	140	
	5ヶ年平均		29,394	168	
	3年見通し		30,000	140	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。主要生産者が作付けを減らしている影響とみられる。サイズ4～5号が中心で、その他のサイズは大幅な減少の見込み。ピンク、黄色の引き合いが強く、価格は入荷量の減少に伴い安定すると予想される。前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（36.8%）、2位茨城（20.6%）、3位奈良（18.1%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	28年	74,095	249	
		29年	60,599	229	
		30年	58,896	229	
		元年	49,984	267	
		2年	43,860	260	
	5ヶ年平均	57,487	245		
	3年見通し	42,000	250		
概要	<p>5号、6号鉢は生産量の減少により入荷は減少する見込み。4号鉢は前年並のため、全体としてはやや減少か。卒業や卒園需要が高まる2月下旬から3月上旬にかけて引き合いと共に相場は安定するが、それまでは前年より厳しいと予想。</p> <p>前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(21.3%)、2位愛知(19.4%)、3位香川(17.5%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	28年	58,597	185	
		29年	47,725	170	
		30年	51,402	172	
		元年	51,910	202	
		2年	52,516	200	
	5ヶ年平均	52,430	186		
	3年見通し	52,000	192		
概要	<p>全国的に作付けが減少しており、1月からの寒波の影響で開花も遅れ気味で入荷量は少ない見通し。3号から4号までの小鉢中心だが月初めは市況弱含み。月後半からの卒業・卒園に向けて徐々に高値となるだろう。</p> <p>前年2月の主要県の集荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(27.1%)、2位静岡(22.5%)、3位岐阜(19.6%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	28年	32,626	811	
		29年	25,502	712	
		30年	24,597	653	
		元年	23,326	593	
		2年	20,587	602	
	5ヶ年平均	25,328	686		
	3年見通し	20,000	600		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。相場の低迷により全体の作付けが更に減少する見込み。特に7号以上の大鉢はかなり少ない。サイズ別、4～6号中心の入荷となる。気温が低い状態でも固めでの出荷を基本にして頂きたい。</p> <p>前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(44.3%)、2位岡山(15.2%)、3位高知(10.8%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.572
令和3年2月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434